産地ブランド発掘事業
取組概要
（H28）

『 簡易貯蔵技術の活用と新品種の導入によるかぼちゃ産地の活性化』
＝徳島県＝

【全体概要】 平成18年度に県農業研究所において「なると金時」の食味と貯蔵性のさらなる向上を目的に、低コストで貯蔵性が高まる技術「簡易キュアリングシステム」を開発した。 しかし、「なると金時」栽培では普及せず埋もれた技術となっている。
そこで、実需者ニーズに対応したかぼちゃの出荷体系を確立するために、本県の強みである貯蔵技術「簡易キュアリングシステム」の活用と、食味の良い新品種かぼちゃ「九重栗EX（カネコ種苗）」等の導入により安定した販売をめざす。

新品種・新技術等の概要

【新品種「九重栗EX」の特徴】
・甲高のハート型で1果重1.8から2.0kg
・肉質は粉質である。
・完熟果としての収穫適期は開花後50日。

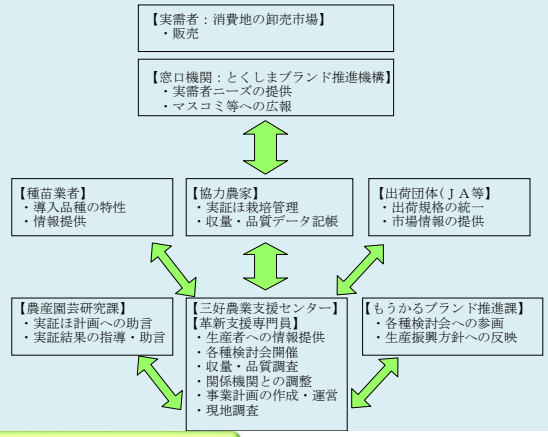
【新技術の概要】
県農業研究所において開発された「簡易キュアリングシステム」を活用し、果実傷口のコルク化による治癒効果を高めつつ、貯蔵中の温度・湿度を制御することにより、かぼちゃの貯蔵性を高める。

【キュアリング技術の実証】
・収穫後から1週間キュアリングの実施
・除湿機区、送風機区、保温マット区、慣行区による処理効果の実証

主な取組内容

- マッチング推進方策の検討会開催
- かぼちゃのキュアリングの実施
- かぼちゃの栽培暦の作成と配布
- かぼちゃの市場調査の実施
- 実需者とのマッチング推進方針の検討会実施

コンソーシアム候補の体制図



とくしまブランド推進機構は、県、農協中央会、全農、農業開発公社の強みを持ち寄り、農家所得の向上、農業生産の拡大を目的に、マーケットイン型の生産流通販売を総合的に支援する組織。
出口対策を考えながら栽培振興を進めることができる。

実績と今後の展開

キュアリングの実証結果は、単年度の試験であったため、慣行区と展示区における品質の差は判然としなかった。
当該品種は栽培しやすく、市場、小売店においても評価が高く将来性は有望であった。
栽培面積では、全農、市場と連携を取りながら推進したことにより平成27年度85aが140aと1.6倍になったが、台風、大雨など湿害により出荷に至らない圃場があり、例年並みの収量となった。
生産者は、当該品種を含むかぼちゃの市場評価が良かったため、今後の栽培に意欲的である。
今後においても、今回の体制を活用した作付け計画を推進し産地育成を図りたい。